

教育委員会だより

私たちの大切な宝である子どもたちが、夢や希望を持ち、持続可能な社会の創り手となるよう、教育委員会や各学校ではさまざまな取り組みを行っています。その「今」を紹介します。

未来の大牟田について語り合い、学び合い、つながろう！～ユネスコスクール・SDGs/ESD交流会～

本市では、平成23年度にすべての市立学校が一斉にユネスコスクールに加盟し、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進しています。

7月28日に「未来の大牟田について語り合い、学び合い、つながろう！」をテーマに、教育委員会の重点事業の一つ「未来を創るESD推進事業」の取り組みとして、「ユネスコスクール・SDGs/ESD交流会」を開催しました。この交流会は、我が国のESDをリードしてきたまちとして更にステップアップするため、令和3年度から開催しています。

交流会は、市立の学校関係者だけでなく、幼稚園や高等学校の先生方、企業や各種団体、市職員などのさまざまな分野から約150人が参加しました。

はじめにOMUTABRIDGE

の高口恵美さんに橘中学校における「ジュニアシティーメーカー」の取り組みを紹介してもらい、その後、「大牟田の未来のためにアイデアを創り出そう」というテーマでワークショップを行いました。ワークショップでは、参加者がそれぞれ8人ほどのグループをつくり、「目指したい未来像に向かって、個人、あるいはみんなで行な取り組みができるか」という課題に向き合いました。

各グループでは、

◆防災・減災 ◆世界遺産

◆環境 ◆まちづくり

◆キャリア ◆福祉 ◆食文化

のいずれかのテーマで、この課題を解決するために「自分の立場でできること」や「みんなで協力し、支援できること」について話し合うとともに、それぞれの思いや考えを共有し、活発な意見交換の場となりました。



高口さんには、橘中学校の生徒が対話を重ねて「レジェンドバーガー」や「シグナルロール」等の商品開発に取り組んだ過程について紹介してもらいました。この取り組みを参考に、ワークショップでは目標に向けて自分たちにできることを具体的に考えました。

ワークショップでの意見

◆ 教育に興味をもってくれる人が多いことを知り、とてもうれしく思った。それぞれの立場を生かして子どもたちのために協働すること、新しいアイデアが生まれることを実感した。

◆ 自分たちも課題解決に向けた取り組みの一端を担っているという意識が、今後の社会貢献へのモチベーションアップにつながった。

◆ 今後、自分たちがどんな取り組みをアピールしていけば、教育現場で役に立てるのか、考える機会になった。



福岡教育大学の石丸副学長から「大牟田のSDGs/ESD」について全体総括が行われました。



子どもたちの未来と持続可能な大牟田のまちづくりに向けた今後の取り組みについて、意見交流が行われました。

全体総括では、福岡教育大学の石丸哲史副学長から「組織を超えた横のつながりも大切に、大牟田の新たな風土をつくってほしい」と助言をいただきました。

教育委員会は、この取り組みをきっかけに大人同士が協働すること、子どもたちの未来と持続可能なまちづくりに向けた活動が、より盛んになるよう、今後も支援していきます。

子ども大牟田検定を実施しました！

8月31日に市立小・中・特別支援学校で「第25回子ども大牟田検定」が行われました。この「子ども大牟田検定」は、大牟田の歴史的・文化的財産である「ひと・もの・こと」に関する問題の受検を通して「ふるさと大牟田」のよさを改めて見直し、大牟田市についての興味・理解を深めるものとして、平成23年度から年に2回ずつ実施しています。

オンライン形式での実施は第24回に引き続き2回目で、子どもたちは自分のタブレット端末を使って受検しました。

小学生は、3・4年生が基礎編、5・6年生および中学生が基礎編か上級編を選んで解答できます。検定を終えると解答は自動採点され、すぐに結果が分かるだけでなく、間違えた問題については、自動的に出てくる解説で確認できるシステムになっています。5回満点をとると「子ども大牟田大使」という称号が与えられます。

子どもたちのタブレット端末には、大牟田のよさを知るための資料「子ども大牟田検定ガイドブック」が入っています。検定前や検定後に見直す子どもたちの姿もありました。

各学校では、朝の時間や帰りの時間を使って検定が実施されました。自動採点の結果を見て、一喜一憂した後はじっくり解説を読んで理解する姿が見られました。

教育委員会のホームページに過去問題を全て掲載しています。皆さんも、ぜひ挑戦してみてください。ふるさとを大事にする心をみんなで高めていきましょう。



タブレット端末の写真を大きく引き伸ばしたりヒントを探したりしながら、自分のペースで解きました



小学生のころから毎年受検してきた中学生も真剣に取り組み、ベストを尽くしました

水曜の午後の時間を活用し職員も日々研さんしています！

今年度から、水曜日の時間割を見直しました。各学校では、児童生徒下校後の時間を活用して、子どもたちの命を守るための研修や、地域について学ぶ職員研修を計画・実施しています。



「救急講習」心肺蘇生、AED・エピペン使用等、緊急時対応のための研修



「学力向上」各校の課題解決に向けた具体的な取り組みについての継続的な研修



「地域学習」ネイチャーガイドや歴史保存会の人から直接現地で話を聞く研修



「コミュニティスクール」中学校区の小・中学校教員が一堂に会し、地域学校協働活動推進員による研修

命の紙芝居で平和の尊さを学ぶ

命の紙芝居で平和の尊さを学ぶ

フォーリナーサポートクラブ代表の松井小百合さんは、戦争の悲劇を二度と繰り返さないようにと戦争体験者である父親から話を聞き取り、これまでに30作もの「命の紙芝居」を制作し、語り継いでいます。

宅峰中学校では、令和元年度から毎年、松井さんを講師に迎え、平和学習に取り組んでいます。8月4日の平和学習では、練習を行ってきた3年生4人が、大牟田大空襲の体験談をもとに作られた「とんぼ」の紙芝居を、体験者の気持ちを考えながら朗読しました。

また、白光中学校の生徒は、平和の尊さを後世に伝えていくため、昨年度、松井さんの紙芝居の朗読動画作成に挑戦しました。日本語だけでなく英語バージョンもあり、その動画は、白光中学校のホームページに掲載しています。



白光中学校のホームページはこちらから→



「命の紙芝居」を朗読する宅峰中の生徒

■問合せ 教育委員会事務局総務課
教育みらい創造室（☎412867）